

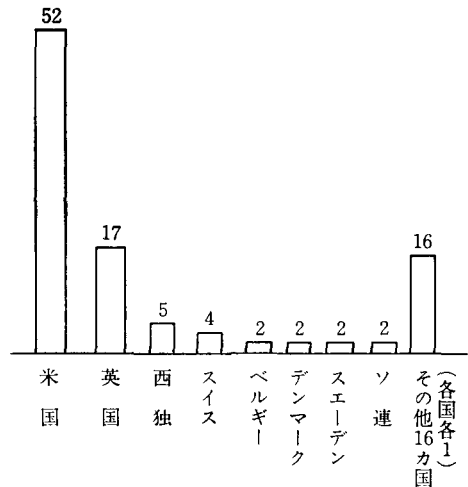
科学の研究に対するピア・レビュー

米国における科学の研究がときどき話題になる。最近の米国の週刊誌 (U.S. News & World Report, Oct. 27, 1980) はそれについて、関係方面を取材し次のように伝えている。1971年から1980年の間、ノーベル賞を受けた人を国別にみると、米国(52人)、英国(17人)、西独(5人)、スイス(4人)、ベルギー(2人)、デンマーク(2人)、スウェーデン(2人)、ソ連(2人)、その他(1人)の国は16カ国となっている。1980年代において、米国はそのスコアにおいて断然他国を引離して第1位であり、また1941年以来の数では、科学の分野のみに限ると126名の受賞者を出している。第2位の英国の数を2倍以上も引離している。米国が科学の分野で、どれだけ世界の人々に貢献してきたかの1つの指標とみることができる。

ところで、なぜこんなに多くのノーベル賞受賞者、その中でも、科学関係の受賞者が、米国に多いのかについて、同誌は米国科学振興協会のウィリアム・D・ケアリー理事長に意見をたじた。答は次のとおりであった。

『米国では、科学の分野で傑出することを刺激するとともに、自由な考え、何ものにもとらわれない着想を支持、勇気づけるシステムがあるからだ。これと反対に、ソ連では、科学の研究者は決して自由ではなく、自分の興味のあることを進めることができないし、大部分は5年間に研究を完成し、応用できるように指示される。しかし、米国でも、科学的研究であれば、なんでも支援が受けられるというものでもない。その研究を支援するかどうかについて、評価をし、それをパスしなければならない。この評価方法の1つがピア・レビュー (Peer Review) システムである。

どこの国でも、偉い先生、先輩權威の推薦する研究を批判することは、相当勇気のいることで、評価はむずかしい。そこで、研究を主として進める研究者と同様の資格、経験のある者、平等につきあえる仲間の者、同時代の人の中から評価者を選び、評価するのである。これがピア・レビューである。別の言葉でいえば、Equal Person Review である。なお、研究援助を受けて、研究を進めなければ、ペナルティーが課される。とにかく同時代の、同レベルの、同じような専門家仲間の確認が



1971—80年国別ノーベル賞受賞者

なければ、研究援助金が受けられない。また、援助資金等を受けた後、研究が進められないと、仲間評価者の恥になることにしている。これも1つのペナルティーである。しかし、どんな研究も、權威を心配せずに自由に、自由な考えでできることにしている』

ピア・レビュー・システムとは面白い言葉であるとともに面白いやり方である。ケアリー理事長の話では、科学振興協会は、各大学の研究センターに、このような方法による選考により、研究の援助を行ない、成果を上げてきたと言われる。米国人の考え方、米国の国力の源泉の一端がうかがえるようである。(Y. I.)

第1回数理計画シンポジウム論文集

標記論文集を1部3000円(送料とも)で販売しています。希望者は学会事務局までお申込みください。